

2015年8月28日 第96号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)

http://www.kvodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

8月25日、毎週火曜日全国いっせいで宣伝行動

都内では7カ所開催。203人参加、166人の署名集める

四ツ谷駅では全教本部から18人が参加、25人分の署名を集めました。80歳のおばあさんが「皆さんの発言を聞いていてもたってもいられなくなった」と一緒にビラを配り、「団地でも配る」とビラ30枚を持って帰ってくださったそうです。日本共産党・畑野君枝衆院議員が駆けつけあいさつしました。

新宿東口では全商連、自由法曹団、民青、全国革新懇、共産党など憲法共同センター運営団体や生協労連などが参加。大阪革新懇から11人が駆けつけ、32人で宣伝行動を行いました。22人の署名を集めました。日本共産党から宮本徹・衆院議員が駆けつけあいさつしました。

西新橋一丁目交差点では国公労連本部や加盟単組から約30人が参加。弁士は4人で、日本共産党・清水忠史衆議院議員、全法務の実川委員長、全司法の中矢委員長、国公労連の笠松書記次長が訴えました。国公労連署名「戦争法案の廃案を求める請願署名」を集めるとともに、「8.30大行動」のビラを配布し、参加を呼びかけました。

上野駅マルイ前では全労連加盟単産、全労連事務局から29人が参加、32人の署名を集めました。日本共産党・倉林明子参院議員が駆けつけあいさつしました。対話も弾みました。①(63才女性)戦争になったら、犠牲になるのは女性と子ども。これからの人たちに悲しい思いをさせたくない。戦争は、命の問題。犠牲者は人間。命は尊い。②(英語塾の帰り、11才、5年生男子)若い人が戦争に出されるのはイヤ。戦争で死ぬのはイヤ。学校の友達もみんな戦争はイヤだって言っている。③(30才女性)70年だけでなく、ずっと100年も200年も戦後をのぼしていきたい。世界から紛争をなくすために、9条のある日本が率先してやるべきこと。そうすることで日本は世界から尊敬されると思う。④(25才ロシアからの留学生)戦争放棄の9条は、日本にとって良いもの。今、日本は安全な国。銃を使う国になったら、日本人に損害を与える。

大塚駅では東京地評など東京労働会館の各団体、年金者組合から60人超が参加、29人の署名を集めました。国会からは、日本共産党・池内さおり衆院議員が駆けつけました。



御茶ノ水駅では全日本民医連事務局から15人が参加。日本共産党・堀内照文衆院議員が制服組が暴走した防衛省の内部文書作成を中心に力強く15分訴えていただきました。つづいて、木下興次長をはじめ5人の弁士が訴えました。「8.30大行動」のチラシを中心に配りました。署名に応じてくれる人が耐えることなくつづき、15人の署名が集まりました。

茗荷谷駅の参加者は新婦人13人、憲法会議2人、農民連2人、日本共産党・大平喜信議員と秘書の方を含め19人。署名は43人分集まりました。通りかかった犬の散歩をしている小学校低学年の男の子が「何してるの？」と聞いてきて、憲法共同センターのぼり旗を持ってくれたり、最後まで協力してくれました。大平議員の訴えも力のある訴えでした。チラシは250枚ほぼ配布。署名してくれた人に30日への参加を話すと、6人中3人が参加を約束。ネットを見てきた40代の女性は、署名をしてくれたブックカバーを見て、「いいですね！」と。90歳の男性は、「絶対反対！台東区で大空襲にあった。レッドページされ出版労連を立ち上げた。30日も元気だったら、参加したい。若い人たちに期待するよ」と、激励も。



8.26 議員要請・署名提出院内集会

大阪、京都、新婦人、自由法曹団、全教、宗平協が決意表明

8月26日、憲法共同センターは「止めよう！戦争法案 8.26 議員要請・署名提出院内集会」を開催し、9都道府県から39団体、82人が参加しました。憲法署名や戦争法案に反対する署名など23万3107人分の署名を提出しました。

日本共産党からは、穀田恵二衆院議員、倉林明子参院議員、赤嶺政賢衆院議員、本村伸子衆院議員、畠山和也衆院議員、清水忠史衆院議員、斉藤和子衆院議員、田村智子参議院議員、宮本岳志衆院議員、畑野君枝衆院議員が駆けつけあいさつをしていただきました。

自由法曹団の荒井団長が主催者あいさつ。「安倍首相は『戦争法案は戦争しないための法案』と、ナチズムの手法のようにウソを繰り返し国民に信じさせようとしているが、私たちはウソを信じるほど馬鹿ではない。ウソを見抜き、世論に危険性を訴え、広げ、戦後70年にふさわしい平和の道こそがふさわしいと全国に響かせよう。戦争法案の廃案と同時に安倍首相の退陣を勝ち取るため力を振り絞ってがんばろう」と述べました。



大阪憲法会議・共同センターを代表し、西淀川共同センターの山本さんが発言。集会に大阪革新懇、堺市共同センター、大阪民医連の仲間も参加していることを紹介し、3万人分の署名を大阪選出の清水忠史議員に手渡しました「西淀川では6月から月1回ドラムデモを続けており、8月21日には若者がラップ調で自分の言葉で訴え、9月9日、10日にもデモや宣伝を予定」と述べ、若者が立ち上がっていることを報告しました。「8月30日には大阪大集会を予定し、3万人目標。これはメーデーでも見たことのない数。民主、社民、大阪平和人権センター、シールズ関西、サドルズなど幅広い共同。集会を成功させ、戦争法案を止めたい」と決意表明しました。

京都からは、京都憲法共同センターを代表して京都総評の梶川事務局長が発言。「大阪に負けるわけにはいかない。今日は1万5千人分の署名を担いで駆けつけた」「昨日共同センターの緊急代表者会議を開催した。8月29日円山音楽堂での集会、8月30日いっせい行動を成功させ、9月13日までに戦争法案を止める折り返し地点に8月末をつくる意思統一をした」と報告。「8月9日の『地域騒然いっせい宣伝』では、与党議員事務所のすべての路地裏にハンドマイク隊に入れた。とりくみは地域に広がり、地域騒然のなか8.30に向かおうという雰囲気になっている」と述べ地域の多彩なとりくみを紹介しました。



新婦人中央本部からは池田さんが発言。新婦人からは9万7163人の署名を提出しました。「2万人の戦争法案に反対する声が『ママの会』に寄せられている。寄せられたメッセージを冊子にして国会に届けるため、明日、『8.27 ママの国会大作戦 メッセージ提出集会・議員要請』を行う。『ママの会』は30以上の都道府県で立ち上がり地域に広がっている」と述べ、北海道、宮城、石川、滋賀、兵庫、広島「ママの会」の多彩なとりくみや、「ママの会」の横断幕は高知、群馬、大分、鹿児島など地方都

市にも広がっていることなどを紹介しました。「サイレントマジョリティと言われていたママはもう黙っていない。他の誰でもない自分たちの声をあげ始めた。戦争法案を本当に止める」と決意表明しました。

自由法曹団からは松島さんが発言しました。「昨日、自民党が参議院で参考人質疑やりたいと議運に出したが、拒否され一般質疑に流れた。戦争法制が正当性得ることなく、言い逃れ、矛盾の答弁に終始していることは明らかだが、安倍首相は諦めてない。最大の山場を迎える中、自由法曹団も加盟する日弁連は本日を『戦争法案反対行動』と銘打って、昼は院内集会、夜は『オール法曹、オールアカデミズム』を開催する。これを大きく成功させる。8月30日は、自由法曹団に警備の要請が来ている。警察の横暴がないよう微力ですが奮闘するので、安心して集会に参加して下さい」と述べました。



全教からは土方書記次長が発言しました。「全教、教組共闘連絡会、高校組織懇談会は『教え子を再び戦場に送るな』のスローガンを掲げ続けてきた」と述べ、その一環として「戦争する国ではなく、9条をいかに平和を広げる国を手渡したい」の意思表示を全教職員に広げるとりくみを紹介しました。「管理統制が厳しいなか、『意思表示カード』は4万9094枚が全教に届いている。『平和を広げる国を手渡したい』に9割がマル。『戦争法案はどう考えても理がない』『小学生の子どもに憲法9条を説明するとすごいねと感想。大切にしていきたい』などのメッセージも書かれている。組合員の3倍以上を集めたところや、組合員がいないのに職場から何十枚も送られてきたところもある」と報告。北海道や富山での日教組との共同も紹介し、「戦争法案を廃案にするとりくみを全国に広げていきたい」と決意表明しました。

最後に、お葬式の会場から駆けつけた、日本宗平協の森さんが発言。「8月25日、星陵会館で集会を開催し全国から350人集まり満杯になった。渡辺治先生が講演し、『戦争法案、原発、沖縄、一体でやろう』という言葉が参加者に響いた」と報告。「7月初旬、本願寺派の僧侶、山崎龍明さんが『黙っておれん、国会に行きたい』の声で7月24日がまとまった。瀬戸内寂聴さんには『立ち上がりが遅い』と怒られた」と述べました。また、ニューヨークタイムズに掲載された宮城泰年さんの「殺すな 殺されるな」をグッズにし8月22日に出来上がったことを紹介。「加害者にも被害者にもなるなという9条の思いが書かれている」と述べました。



最後に憲法共同センターから全労連の盛本常任幹事が閉会のあいさつ。昨年の改組から170万人分の署名を提出していることを報告しました。今後の行動提起として①総がかり行動実行委員会や憲法共同センターが呼びかける行動に参加し、対話・宣伝をさらに広げよう②8月、9月予定されている国会周辺の集会や座り込みへ結集しよう③特別委員会の傍聴行動を組織しよう④参議院議員への要請を行おう⑤9月10日「止めよう！戦争法案議員要請・署名提出院内集会」への結集しよう、と5点について呼びかけました。

その後の要請行動では、参議院議員や議員秘書40人に、①戦争法案に反対してください②戦争法案の強行採決に反対してください、の2点について要請しました。民主党や共産党からは激励を受け丁寧な対応。自民党は、丁寧に話は聞くものの「基本的には党の立場」という反応でした。公明党は面会拒否やポスト対応のみ…など冷たい対応でした。その後、山本太郎議員や吉良よしこ議員（秘書の代筆）など、要請に賛同する報告が返ってきています。

次回議員要請・署名提出行動は9月10日(木)14:00～(衆議院第1議員会館大会議室)です。